

生きる力

SHINGON

特集

「生きる力」とお大師さま

— ご宝号と祈り —

生きる力 SHINGON

Vol. 106





埼玉県川口市

宝珠山地蔵院 錫杖寺

関東八十八ヶ所霊場第七十六番札所
武州川口七福神霊場巡り(福祿寿尊)

映画「キューポラのある街」をご存じでしょうか。ヒロイン役の吉永小百合さんが大人気になるきっかけとなった作品です。昭和三十七年公開です。で、今から五十九年も前のことですが……。この映画の舞台となった街が、今回訪れた埼玉県川口市で、キューポラとは、鋳物を作る際、鉄の溶解に用いる溶解炉のことです。

江戸時代の農閑期、副業として日用品や農具、梵鐘など寺社用品や大砲などを鋳造したことで、鋳物の街として川口市は全国に知られます。学習院大学の旧正門(国の重要文化財)や、昭和三十九年に開催された東京オリンピックの聖火台も川口で鋳造されています。ひと昔前まで川口駅周辺には鋳物工場が点在し、キューポラの煙突から出る煙をあちらこちらで見ることができました。近年その面影はなくなり、煙突の代わりにタワーマンションが建ち並び、県内屈指の大都市へと変貌しています。

川口駅から歩いて十分程。川口駅東口公共広場(キューポラ広場)にあるキューポラのモニュメントを眺めつつ、本町通りを国道一二二号方面へと向かい、川口郵便局を過ぎ、国道手前を左折すると、正面右手に「真言宗智山派」、左手に「宝珠山地蔵院錫杖寺」と彫られた石の門柱、その奥に山門(御成門)が見えてきます。訪れたのは五月中旬、門の奥には木々の緑が目映く、おそらく本堂へと続くのであろうと思われる石段が見えるのみ。境内はいつたいうなっているのかと門をくぐりました。



第35世政雄大和尚により発願され、第36世俊則大和尚の代、昭和50年10月10日落慶された鉄筋コンクリート2階建ての荘厳なる本堂。

菊の御紋が

門をくぐり、参道を進むと、なぜこんな大きな建物が見えなかったのかと思われるほど、荘厳で重厚な本堂が現れます。そして本堂屋根正面の鬼瓦には金色に輝く菊の御紋が目に見え込んできます。

錫杖寺は、天平十二年（七四〇）、行基菩薩によって開山されたと伝わり、鎌倉時代はこの地に再び草庵を結んだ泉涌寺第六世願行上人（憲静）が中興開山とされています。

室町時代には、智山派の法流の源でもある醍醐三寶院の直末寺となり、出家した皇族が入寺できる永代院室兼帯寺院として「十六菊の御紋」が与えられます。そのため、屋根の鬼瓦に菊の御紋が輝いていたのです。そして学僧育成の場である関東十一談林の一つにもなります。弘法大師の再来といわれた印融法印も錫杖寺に止宿し、延徳三年（一四九二）には、現在の我々真言僧侶も重宝させていただいている『諸尊表白抄』（仏さまを讃え、願意を伝える文）を錫杖寺で著されています。

江戸時代になると、真言宗関東七ヶ寺の一つにかぞえられ、五十三ヶ寺もの末寺を擁し、菊の御紋に象徴されるように、格式高き由緒ある寺院として隆盛します。

葵の御紋も

菊の御紋の鬼瓦の下、鋳金具には葵の御紋がこれまた金色に光っています。葵の御紋といたら徳川家ですよ。

徳川家とのお縁は、家康の七回忌に当たる元和八年（一六二二）、二代將軍秀忠が日光参詣の折、錫杖寺で休息をとられたことに始まるそうです。三代家光の代には、御朱印二十石を賜り、さらに寄進を受け御成門と御座所が建立されます。御成門は俗に「あかずの門」といわれ、將軍家お成りの時にしか開門されなかったそうです。五代綱吉の代には、錫杖寺住職が年頭に將軍に独礼する榮譽を与えられます。八代吉宗の代には鷹狩りの際の御膳所に定められます。九代家重からは、吉宗の追善供養を命じられ、以降歴代將軍の追善供養が行われるようになります。嘉永五年（一八五二）、川口は大火に遭い、錫杖寺の堂宇は焼き尽くされます。錫杖寺の焼失を惜しんだ十三代家定は、品川御殿山の館を下賜し、錫杖寺を再建されました。

また、十三代家定・十四代家茂と二代にわたって大奥最後の御年寄をつとめた瀧山がここ錫杖寺に埋葬されています（本誌五十三号「寺院歴史散歩」に掲載）。

このように徳川家との関係は深く、随所に葵の御紋を見ることができます。



①本堂内陣 葵の御紋の入った水引（内塵と外障を区切る欄間に懸けられ金襴の布製の荘厳具）は、瀧山家より寄進されたもの。内陣の両側の壁に掛けられている両部曼荼羅は刺繍で描かれた貴重なもの。



②ご本尊延命地藏菩薩。お前立には金剛界大日如来。昔は秘仏として厨子が閉じられていましたが、現在は御開帳されており、そのお姿を拝見しながら参拝できます。厨子には十六菊の御紋があります。

③本堂正面屋根の鬼瓦には十六菊の御紋、鋳金具には葵の御紋が輝きます。





- ④地蔵堂では、お正月や節分、毎月24日のお地蔵さまのご縁日に護摩法要が行われます。四代將軍家綱の病氣平癒も行われました。
- ⑤將軍さまがお成りの時しか開かなかった御成門。川口の大火で焼失してしまい、現在の門は宇都宮城の城門を移築したものの。柱や扉には刀傷が残り、歴史的にも貴重な門。
- ⑥本堂両脇にある葵の御紋の天水鉢。昭和39年の東京オリンピックで聖火台を造った鈴木文吾氏の作
- ⑦第37世江連俊裕住職(右)と俊隆副住職(左)
- 総本山智積院の責任役員でもある住職・副住職ともに、まさにお地蔵さまのようなお顔立ち。お地蔵さまのような優しいお心で参詣者を包み込んでくださいます。

お地蔵さまたち

お地蔵さまは、よく右手に錫杖、左手に宝珠を持つ姿で表されます。錫杖寺の山号は宝珠山、院号は地蔵院とすべてお地蔵さまに縁があり、多くのお地蔵さまにお会いすることが出来ます。本堂のご本尊は秘仏であった行基菩薩作と伝わる延命地蔵菩薩。地蔵堂のご本尊は石彫坐像のお地蔵さま、地蔵堂前には八面塔が建ち、その六面には六地蔵が彫られています。本堂手前には十三仏の銅像が祀られ、その中にはもちろんお地蔵さまも鎮座されています。参道左手の小堂には、鑄物坐像の何ともいえないお顔をされている青山地蔵尊。頭をなでることのできるかわぐち地蔵などなど。

錫杖は、苦しんでいる人々を救うため、世間を絶え間なく歩きた

めの杖で、その清らかな錫の音で厄災を祓ってくれます。宝珠は、願いを叶えてくれる宝物です。まさに錫杖寺のお地蔵さまたちは、わたしたちを苦しみから救ってください、幸せへと導いてくださいます。

將軍さましか通ることが許されず、最近まであかずの門であった御成門。そして最近まで秘仏として厨子の扉が閉じられていたご本尊延命地蔵菩薩。俊裕住職の「檀信徒に親しまれる、開かれたお寺を」という思いのもと、今は御成門もご本尊さまの厨子も、日々開かれています。

(智山教化センター所員/上村正健
撮影/竹本りか)



ACCESS アクセス

宝珠山地蔵院 錫杖寺

HP <http://www.shakujyoji.com>

〒332-0012 埼玉県川口市本町2-4-37

Tel 048-222-2046

電車で JR京浜東北線 川口駅から徒歩10分

埼玉高速鉄道 川口元郷駅から徒歩7分

車で 東北自動車道 浦和ICより約30分

首都高速道路 鹿浜出口より約20分

板橋本町より約30分

智山寺院探訪 スライドショー

掲載しきれなかった
写真や見どころを動画で紹介しています



知足

おおもり しんせい
大森 真成
(愛媛県伊予市
称名寺住職)

今日の法語

「知足」
ちそく

本能に任せて絶えず欲しいものを求める心に、安心は訪れません。しかし、念願のものを手に入れても、新たな欲望が尽きないのは人の性といえるでしょう。

昨今の国際目標として「SDGs (持続可能な開発目標)」という言葉をよく耳にするようになりました。「これで十分です」という多くを求めない、足るを知る心によって、人は幸せを実感できるという教えに深く通じるように感じます。

先ずは足るを知ることから世界の人々と心を共にし、幸福な世の中がいつまでも持続可能でありますようお願いしましょう。



群生する彼岸花。土の中で球根が株分けして繁殖するため、同じ地域に咲く彼岸花たちは同じ遺伝子を持ち、開花時期や花の大きさや色などが似通ったものになります。遺伝子を受け継ぐ、ご先祖さまと私たちのようですね。

「生きる力」とお大師さま —ご宝号と祈り—

変わらぬご先祖さまへの想い

道ばたに咲く彼岸花を見かけると、「もう秋のお彼岸か」と心の中でつぶやいた経験がある方も多いのではないのでしょうか。

誰にいわれることもなく、ましてや暦を確認するでもなく、毎年同じような時期に咲く彼岸花。次々と変わりゆく世の中を尻目に、変わらぬ姿で繰り返し咲き続ける様子を見ると、芯を貫く強さというか、何か大切なことを教えられているような気がします。

私たちを取り巻く環境が変わっても、ご先祖さまのおかげで今この命がある事実は変わりようがありません。昼と夜の時間が等しくなるお彼岸のお中日は、ご先祖さまがいらっしゃる仏さまの世界と、私たちのいるこの世とがいちばん近づく日だと伝えられています。きつとご先祖さまへの想いも、より強くお届けできることでしょう。ですから、お墓参りや彼岸法要への参列、お塔婆を建てるなどをして、私たちへ命をつないでくださったご先祖さまに対して感謝の気持ちを忘れずに、お彼岸の期間を過ごしましょう。

感謝し唱えるご宝号

「ご宝号」とは、仏さまや高僧のお名前を、敬意を込めてお唱えするものです。そして

ご宝号の意味

南
無

インドの言葉「ナマス」の音写語で、信じ敬うことをいいます。「帰命」「敬礼」などと訳され、両祖大師を敬う心が表されています。

大
師

朝廷から高僧に対して与えられる諡で、空海さまは延喜二十一年(921)に、醍醐天皇より「弘法大師」をいただきました。「大師は弘法に取られ」という言葉があるように、弘法大師はとて有名です。

遍
照
金
剛

空海さまが、師の恵果阿闍梨よりいただいた「密号」というお名前です。遍照は、仏さまの光が陰・日向分け隔てなくすべてを照らし、見守ってくださることを意味します。金剛とは、私たちの煩惱を打ち砕く、ダイヤモンドのように堅い仏さまの智慧を意味します。

ご宝号の意味 仏事がわかるリーフレット Vol.9 「両祖大師とご宝号」から抜粋。ご宝号は感謝し敬う心を表しています。



弘法大師 御影

智積院蔵



お大師さまのご宝号を背負い、お大師さまとともに祈るお遍路。道中でも、お大師さまはいつでも寄り添ってくださいます。

て、ご宝号をお唱えすることによって、多くの功德をいただくことができます。私たち真言宗智山派では、彼岸会をはじめ、さまざまな法要で必ずお唱えしています。難しい経文ではないので、お名前を呼びかけるような、どなたにも親しみやすくお唱えしやすいという特徴があります。数あるご宝号の中でも私たちが特に大切にお唱えしているのが、私たちが親しみと尊敬の意味を込めて「お大師さま」とお呼びしている宗祖弘法大師空海さまのご宝号「南無大師遍照金剛」です。

え、日々見守ってくださるお大師さまへの感謝の言葉であり、その教えを信じ、迷わず実践するという約束の言葉でもあります。

お大師さまの願い

「虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きなば、我が願いも尽きなん」

この句はお大師さまが晩年、高野山で執り行われた「万灯万華会」という大法会で読まれた願文の一部です。すべての存在が苦しみから抜け出し、安らかな仏さまの世界へと旅

立つときが来るまで、私の願いは尽きません。という、人々を幸せに導きたいという意味が込められています。お大師さまは承和二年(835)の三月二十一日に高野山奥の院にてご入定(永遠の禅定・瞑想に入られること)されてから今この瞬間も、私たちの平穏な暮らしと幸せを願い、祈り続けてくださっています。

大切な誰かのために祈りを捧げるとき、亡き人のご冥福を祈るとき、自身の穏やかな暮らしを願うとき、お大師さまを心に思い浮かべ、ご宝号を一心にお唱えしましょう。そのご宝号は私たちの祈りや願いとともにお大師さまの元へと届くことで供養となり、功德を授けてくださいます。

祈るということ

前号（二〇五号）では、「同行二人」についてお話をしましたが、「お大師さまがいつでも側においでになり、見守ってください」そう強く信じれば信じるほど、その実感は増していくのだと思います。見守られている、祈られている、という実感は日々の生活にやすらぎをもたらすことでしよう。

また、祈りは自身のためだけでなく、他者に向けて行うことも大切です。誰かのために祈るという行為は、仏さまの教えの基本となる「利他行」に他なりません。お大師さまは『秘蔵宝鑰』という著作の中でこのようにおっしゃっています。

「菩薩の用心は、皆慈悲を以って

本とし、利他を以って先とす」

これは、慈しみの心を根本とし、まずは自分より他人を思いやって行動するのが仏さまの心である、というような意味になるでしょうか。大きな感謝に包まれたときや、辛く哀しい気持ちに押しつぶされそうになったとき、心が大きく動かされ、自然と手を合わせて祈った経験はありませんでしょうか。「祈ることしかできない」といった言葉を耳にすることがありますが、そうではありません。私たちは、祈ることができるのです。

すべての人々が幸せでありますようにという気持ちで祈ることは、菩提寺などで執り行われる多くの法要の基本にあります。いつも見守ってくださいという仏さま、お大師さま、ご先祖さまの功德がすべてのものにいきわたり、幸せになることを願うのです。そこでご宝号をお唱えすることにより、その意義はさらに増すことでしよう。

誰かを想う気持ちが強く表れたときに、私たちは祈ります。この祈りの心こそが、私たちが持ち合わせる仏さまの性質のひとつなのです。

ご宝号と祈りの実践

仏さまの教えの実践として、ご宝号をお唱えする機会はさまざまにあります。ご自宅のお仏壇で、ご法事で僧侶と一緒に、菩提寺へお参りの際にご本尊さまのご真言とともに……。また、四国八十八ヶ所のお遍路をはじめ

め、お大師さまゆかりの寺院や土地をめぐる、各地でご宝号をお唱えすると、より身近にお大師さまを感じられることでしよう。仏さまに見守られていることを感じ、祈りや願いを込めてご宝号をお唱えすることは、私たちの心を豊かにします。

まずは手を合わせ、心を落ち着かせ、「南無大師遍照金剛」と胸の中でお唱えしてみよう。自然と感謝の気持ちが芽生え、心があたたかくなってきましたか？ あなたが祈るその姿は、どんな時代にも変わることなく引き継がれ、たくさんの人々の幸せに貢献することとなるでしょう。

来たる令和五年には、お大師さまが誕生されてから一二五〇年という記念の年を迎えます。私たちの幸せを、今この瞬間もお祈りくださっているお大師さまに感謝を捧げ、お大師さまと

南無大師遍照金剛



目次

智山寺院探訪 宝珠山地蔵院 錫杖寺	2
今日の法語 (大森真成)	5
特集 「生きる力」とお大師さま	6
お大師さまとご信仰 (田村宗英)	10
梵字よもやま話 (小峰智行)	11
図解・仏教ガイド	
「マンガでわかる十三仏」(え・悟東あすか)	12
御詠歌を、聴いてみよう、見てみよう (佐藤芳典)	14
日本の四季を切り取る十七文字 (星野高士)	15
総本山の便りをお知らせします	16
ニンゲンのつくり方 (中嶋亮順)	18
ごくらくらくご (三遊亭竜楽)	19
知っておきたい仏事 Q&A	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記	22
真言智山派出版物のご案内	23
僧侶と学ぶ仏像鑑賞の伊呂波 (池田英真)	24
お大師さまのご生涯	
一 お大師さまカルター (川崎一洸・三船毅志)	26
「ウェルビーイング」心豊かに生きる (渡邊淳司)	28
花に聞く 仏に聞く (佐々木隆元)	29
私のお大師さま	
ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko (内藤理恵子)	30
ご本尊さまと出会う (小笠原隆浩)	31

同じように、生きとし生けるものが安らかな
る心でいられるよう祈りましょう。
祈り、祈られ、感謝の心で繰り返し「南無
大師遍照金剛」とお唱えすれば、きっと自身
の内のお大師さまに気づき、「生きる力」を
実感していただけることでしょう。

(智山教化センター所員／池田裕憲)



弘法大師 空海
ご誕生 1250年

令和5年(2023年)

表紙

闇夜に光るツキヨタケ
山形県



ブナの枯れ木に群生するツキヨタケは、ひだに発光成分を有していて、夜になると怪しげに浮かび上がってくる。昼間に見ると綺麗なクリーム色のキノコだが、中毒症状を引き起こす毒キノコであるため、決して食べてはいけません。

P5

なかつがわ
中津川溪谷
福島県



うらばんだい あきもとこ
裏磐梯の秋元湖に流れ込む
中津川の流れによって削られた中津川溪谷は、紅葉の名所ではあるが、なかなか訪れられないでいた。やっと自分の撮影スケジュールと見頃が合致した溪谷は、清らかな水と彩錦に包まれていた。

平成十年十二月十六日第三種郵便物認可「生きる力SENSEON」第一〇六号 令和三年九月一日発行 年四回(六月・九月・十二月・三月の一日)発行 定価一〇〇円(税込)
発行人/芙蓉良英 編集/智山教化センター 発行所/〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964 総本山智積院内 真言宗智山派宗務庁

檀信徒向け出版物のご案内

真言宗智山派では、檀信徒の皆さまに向けたリーフレットを発行しております。

仏事がわかるリーフレット07

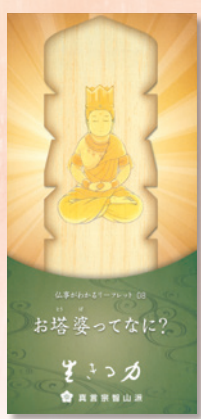
「お彼岸とお墓参り」



三つ折りリーフレット
1部30円
お彼岸の意味やお墓参りの大切さをわかりやすく解説しています。

仏事がわかるリーフレット08

「お塔婆ってなに？」



三つ折りリーフレット 1部30円
お塔婆の起源やお塔婆に書かれている内容をわかりやすく解説しています。

ご注文・お問合せ

真言宗智山派 宗務出張所出版係
電話 03-3431-7828
FAX 03-3431-0203



ここで紹介したリーフレット以外にも、写経用紙や御詠歌用品などさまざまなものを取り扱っております。詳しくは総本山智積院ホームページ内「出版物のご案内」をご覧ください。

京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964
TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

写経のついで

毎月21日 13時より
於 智積院会館大広間

(納経料千円・要事前申込 定員50名)

智積院阿字観会

毎月12日

午前の部 11時より(受付10時30分より)
午後の部 14時より(受付13時30分より)

※8月と12月は8日

於 智積院講堂

(参加灯明料五百円・)

要事前申込 定員15名

宿坊 智積院会館

一泊朝食付きプラン

8,300円から

(宿泊税・消費税込)

夕食別途3,300円から 消費税込

ご予約・お問い合わせ

TEL 075-541-5363

・JR京都駅よりバス約10分

・京阪電車七条駅より徒歩約10分

※ご予約のご予約は、6ヶ月前の1日より開始いたします。令和3年9月現在、令和4年3月分までのご予約を受け付けております。

※ご予約は智積院会館ホームページ(左記QRコード)からできます。

※GOTOトラベル事業者に登録されております。詳しくは、お電話でお問い合わせください。



宿坊智積院
会館HP

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

愛宕薬師ご縁日(毎月8日)

※8日が土日祝の際は第一金曜日
・大護摩供養 12時より
・写経会(納経料千円) 14時より

9月8日(水)

10月8日(金)

11月8日(月)

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より

於 本堂(木戸銭千五百円)

9月16日 談志一門会

10月21日 三遊亭

11月18日 談志一門会

真福寺阿字観会

昼の部15時より

※夜の部は当面の間中止にします。

於 本堂 無料・要事前申込 定員10名

9月27日(月)

10月26日(火)

11月30日(火)

愛宕薬師フォーラム

11月4日(木) 14時より

(無料・要事前申込)

不安を克服する生き方とは

〜承認不安と現代人の社会背景〜

大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター 客員研究員/山竹伸二先生

Instagram



総本山智積院



宿坊智積院会館

Facebook



総本山智積院

※ご案内の行事は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、延期または中止となる可能性があります。参加を希望する際は、必ず、記載の連絡先へお問い合わせください。